

平成十八年度 入賞・最終選考作品集



# 十七字のふれあい

五・七・五

わくわく体験心と心のハーモニー



主催／福島県教育委員会

表紙はあぶくま養護学校中学部のみなさんの共同製作によるものです。

# 入賞作品



## 最優秀賞

初登山 父の背中を 追いかける

白河市立白河第三小学校

五年

伊藤

幸之介

景色より 一緒にうれしい 初登山

父

伊藤

直幸

〈創作の動機〉

夏休みに家族で白神山地の山に登りました。どんなに険しい道でも、お父さんはどんどん進んで行きました。とてもかつこよくぼくもお父さんみたいになりたいなと思いました。

〈評〉

「登山に行きたい」とお子さんから打ち明けられた時のお父さんは喜びひとしおのことだったと思います。「子は親の背中を見て育つ」といいます。お子さんの将来にとつてたくましいお父さんの背を見ることができたのはとても幸せなことと思います。

〈坂本 忠雄〉

亡き祖母を 花火でパツと おでむかえ

大熊町立大野小学校

六年

小田

諒太

迎え火で 亡き祖母偲び 花火する

母

小田

美穂子

〈創作の動機〉

息子の大好きだった祖母の新盆に、「迎え火」で花火をしながら先祖をお迎えし、親子で「お盆」について考えてみました。

〈評〉

昨今では、家庭内の年中行事は形式化し、次第に影が薄くなりつつあります。したがってその意味や意義をしっかりと語り継がれなくなってきました。この作品は、新盆は大好きだった祖母が迷わず帰ってくることを願いつつ迎え火を焚く様子が詠まれ感動しました。

〈塚本 繁〉

成長期 母の服を着て 背伸びする

浪江町立浪江小学校 六年 佐藤 朱華

気がつけば 娘の服を着て はしゃぐ母

母 佐藤 優美

〈創作の動機〉

まだまだ子どもと思っていた娘も私の身長を越すほど大きくなり、娘のブラウスを見ていたらついつい袖を通して、娘と比べてしまいました。

〈評〉

思春期の娘の著しい心身の成長に、娘は母の、母は娘の服を着て互いの絆を確かめ合う姿は何ともほほえましく思います。このことの底流にある「親思う心にまさる親心」という心情が伝わってきて胸が熱くなりました。

〈塚本 繁〉

ストレスを ボールに込めて 投げるべく

会津若松市立第三中学校 一年 湯 浅 純 平

思春期の 心もキャッチ できるかな

母 湯 浅 早 苗

〈創作の動機〉

日頃は衝突の多い親子だが、夕方のキャッチボールでは、私めがけて真つすぐにボールを投げてくれます。

〈評〉

中学生になれば思春期を迎え、また将来を見通しての進路問題に親も子も神経をすり減らす毎日でしょう。そんな中、キャッチボールを通してストレスを取り除き、母と子の心を交流させている様子を見事に表現しています。

〈津村 栄〉

竿ふって 大物ねらう 岩魚つり

柳津町立西山中学校 一年 天 野 聡

竿見つめ 親は子供の 顔眺め

母 天 野 香

〈創作の動機〉

学年行事に親子で参加し、大好きなつりをしている子どもの顔を見ながら過ごす時間は楽しい時間でした。

〈評〉

岩魚釣りに熱中するお子さん、一緒に釣りをしながらも気になってお子さんの様子を見つめながらお母さん。幅の絵のような光景から、母と子の温かな情感が沸々と伝わってきます。釣りという共通体験によって対話が広まり、母と子の思いがより深まります。すばらしいことです。

〈坂本 忠雄〉

# 優秀賞

夏の夜 おうちのなにわが キャンプ場

福島市立鳥川小学校 三年 今井美月

庭に立つ テントの中は 秘密基地

父 今井賢二

〈評〉

日常生活から離れたいというお子さんの願望を正面から受け止め、自宅の庭でテント体験。父親が子どもの目線に合わせて、本気で対峙している姿を何ともすばらしく思いました。

〈塚本 繁〉

じいちゃんの 車いすおし 美じゅつてん

本宮町立本宮小学校 三年 鈴木美遥

孫の手の ぬくもり守る 車いす

祖母 鈴木淑子

〈評〉

じいちゃんの乗る車椅子をばあちゃんと孫娘が互いに協力し合って美術展を巡る体験がよく表れています。「孫の手のぬくもり」がじいちゃんを介護している様子を表し心を打ちます。

〈津村 栄〉

母の日に 肩もみけんの プレゼント

石川町立石川小学校 三年 大竹彩香

肩こりの 特効薬は 我が子の手

母 大竹友子

〈評〉

「肩もみけん」という言葉にお母さんへの深い思いが伝わります。また、肩もみ券のプレゼントを喜んで受け取り、特効薬とお子さんを大いにほめているところにお母さんの細やかな心配り、立派さを感じます。

〈坂本 忠雄〉

ばあちゃんと いっしょにねたいな しばむぐら

小野町立浮金小学校 四年 石井陽菜

ふわふわの もうふにしたい しばむぐら

祖母 猪狩孝子

〈評〉

「花のじゅうたん」というメルヘンチックな世界の気分と現実が存在する大好きなおばあちゃんと一緒にいたいという感情とを何とも少女らしい自然な表現で詠み上げていることに感動しました。

〈塚本 繁〉

プールでは パパのせなかが うきわだよ

郡山市立日和田小学校 二年 村上莉奈

娘乗せ プールで泳ぐ 夏休み

父 村上敏弘

〈評〉

「親亀の背中に子亀」という大変めたい吉相を地で行くような光景です。幸せ二杯で娘さんの心に「生残る体験だった」と思います。

〈津村 栄〉

のぞきこみ ひなをかぞえて につこりと

須賀川市立仁井田小学校 一年 村岡沙映

雛を見て 枝切り止めて 巣立ち待つ

父 村岡 登

〈評〉

お父さんが庭木の剪定中に、鳥の巣を見つけお子さんに教えました。お子さんが巣を見るとかわいい雛がいました。この時の父と子の様子がコマ送りのビデオを見るようで何ともほほえましく思いました。「につこり」の言葉に込められた「立派に育て」という願いはとつてもすばらしいと思います。

〈坂本 忠雄〉

母さんと 買物ちよつぴり 照れくさい

白河市立白河中央中学校 一年 穂 莉 佑太郎

幼い手 つないだあの頃 思い出す

母 穂 莉 佳子

〈評〉

身二つで生まれてきたお父さんがやがて心もそれぞれ別なものとなりやがては自立して反抗期を迎えます。子の過渡的な親離れの微妙な時期の息子と母親の関係が詠まれ、「手を離して目を離さない」関係へとワンステップ進化する様子がよく表現されています。

〈塚本 繁〉

母とぼく 犬の散歩で 語り合う

白河市立白河中央中学校 一年 星 龍之介

反抗期 犬がとりもつ 仲直り

母 星 寿江

〈評〉

反抗期は誰もが通過するものです。動物愛護の行為を通じ、親子の対話が深まりその交流が太くなつていく様子が見事に出ています。

〈津村 栄〉

稲刈りが いつの間にやら いなぎ採り

会津若松市立城南小学校 六年 村 松 翼

負けないぞ 袋片手に 競う父

父 村 松 伸人

〈評〉

稲刈りもコンバインの時代になり、手伝いも少なくなりました。手持ちぶたさの活用で始めたイナゴ取りに夢中になり、ふと見るとお父さんも負けずに取っています。父と子の協働体験がお互いの心の交流を育むという大切なことをこの句は語っていると思います。

〈坂本 忠雄〉

赤とんぼ 一直線に とまってる

喜多方市立入田付小学校 四年 瓜 生 美 香

稲刈りを 見守るトンボ 一休み

母 瓜 生 喜美子

〈評〉

稲刈りの母と子の様子がよく出ています。親子での仕事の合間に、ふと見あげての二人の心の交流が実によくまとめられています。「一直線に」「トンボ一休み」という表現に感心しました。

〈津村 栄〉

# 佳作

# 審査員特別賞

父さんと 読めば楽しい 漢詩かな

いわき市立草野小学校 五年 大平 麗美

二人して 背筋伸ばして 読む漢詩

父 大平 好一

父さんと やつとみつけた つのカブト

天栄村立牧本小学校 二年 伊達 春騎

虫採りへ 疲れ吹き飛ぶ 子の笑顔

父 伊達 章

いちりんしゃ ころんでころんで おきあがる

郡山市立桃見台小学校 二年 藤井 香帆

雨の日は 傷もお休み 一輪車

母 藤井 英子

湯気の立つ 豆を加えて 手が真赤

喜多方市立慶徳小学校 五年 那知上嘉海

手塩かけ 家族でつくる 手前味噌

母 那知上孝子

汗ぬぐい 四人で歩いた 尾ゼの道

会津美里町立本郷第二小学校 五年 歌川花奈子

子供らと 語らい笑う 尾瀬の空

母 歌川 由花

雨降って 色とりどりの 花しぐれ

県立新地高等学校 二年 武沢 結生

花苗を 手にいとおしく 土に活かす

地域の指導者 仁科 静夫

わーいわい テントのなかは ひろかった

二本松市立石井幼稚園 長 渡辺 亜美

ゆかいだね 一日だけの マイホーム

母 渡辺千恵子

ちやわんふき 今日のできごと 話すとき

県立あぶくま養護学校高等部 三年 渡邊 真輝

いつもより 会話がはずむ 手も動く

母 渡邊キヌ子

あと少し 励ましながらの 山登り

白河市立東北中学校 一年 岡部 里沙

娘と共に 気力で登る 磐梯山

母 岡部 優子

とんぼとり いっぱいあげる おとうとに

南会津町立南郷第二小学校 一年 森 涼

兄弟の けんかを止める 夏あかね

母 森 真樹

むしくった おばあがつくった とうもろこし

福島市立吉井田小学校 二年 菊池 彬彦

だいじょうぶ 虫も大好き 無農薬

祖母 望木トシ子

消えるころ キラリかがやく 花火かな

白河市立白河第二小学校 六年 阿部 吉範

慎重に 線香花火 根競べ

母 阿部かおり

炭おこし うちわ片手に 汗をかか

白河市立表郷中学校 三年 穂積 衿奈

炭起こす 同じうちわで 涼をとる

母 穂積 佳子

がんばって ゆう気を出して ごあいさつ

浅川町立里白石小学校 二年 矢内 優穂

内弁慶 胸のドキドキ 聞こえそう

母 矢内 真理

かんさつの あさがおさんこ まぶしそう

平田村立蓬田小学校 一年 蓬田 和都

あさがおと 孫の成長 見える朝

祖母 蓬田奈美子

さわれない ミミズがぼくを にらんでる

会津若松市立河東第二小学校 三年 五百川 渉

魚釣り 親父は 餌をつける役

父 五百川 啓

お母さん ぎゅつとしたら いいにおい

会津若松市立門田小学校 三年 五十嵐七虹

だきしめて 君への思い 何処までも

母 五十嵐千秋

草をつみ 父と二人で 歩く夏

会津若松市立城南小学校 六年 石井 和泉

ゆく夏を 娘と歩む 里の山

父 石井 秀樹

はかまいり みんなでわいわい そうじする

喜多方市立駒形小学校 一年 須田 航生

大騒ぎ 笑い声さえ 供養かな

母 須田 典子

草むしり 母と並んで 汗ぬぐい

いわき市立草野小学校 六年 萩野 修平

暑くても 子と語いて 草を抜く

母 萩野 光枝

# 奨励賞

ゴミ拾い これが私の ボランティア

飯野町立飯野中学校 三年 高野 華加

雨の中 街も心も クリーンに

教師 穂積 りえ

ぼんおどり 父はやぐらで ぼく踊る

川俣町立川俣中学校 一年 高野信太郎

笛吹けば 櫓の周りに 我が子たち

父 高野 洋

みつけるぞ 私がおにね あさりたち

伊達市立梁川小学校 五年 太田 真琴

潮干狩り ほっぺに泥の 大勲章

母 太田 郁子

父よりも 大物ねらい 浮き見つめ

桑折町立睦合小学校 五年 八木沼香奈

鯉をつり 童子に戻り はしゃぐ我

父 八木沼広明

シャボン玉 お日さまあたって きらきらいと

国見町立藤田小学校 二年 三木 孝哉

我が子らと 空を楽しむ にじの玉

母 三木留美子

虫たちが 草むらの中 かくれんぼ

大玉村立大山小学校 四年 関 亜武路

秋の夜 オーケストラを 奏でてる

母 関 明美

なつやすみ ひまわりめいろ たのしいね

鏡石町立鏡石幼稚園 年中 桐生かれん

ひまわりの 迷路にまよい 汗をふく

母 桐生まゆみ

あせかいて はたけががぶり きゅうりもぎ

玉川村立玉川第二小学校 一年 白井ひかり

生きゅうり 満足そうな 孫の顔

祖父 白井 守

ししおどり お父さんから アドバイス

田村市立下大越小学校 五年 大橋 俊則

肩ならべ 右手・左手 足そろえ

父 大橋 幹一

夏休み 母の手つだい 皿あらい

古殿町立田口小学校 四年 川上 麻依

ありがとう 心も皿も ピカピカね

母 川上千鶴子

おしろ山 ゆう日にそまり あきのいろ

三春町立三春小学校 一年 永山 希

愛姫の 遊びし城跡 草紅葉

祖母 永山 栄子

いもサラダ おいしくなあれと かきまぜる

泉崎村立泉崎第二小学校 二年 菊地 美陽

娘と二人 ポテトサラダに かくし味

母 菊地真由美

なつやすみ ははとあそんだ じくもとり

鮫川村立青生野小学校 一年 白石 和也

わが子にも 昔あそびを 託す夏

母 白石真希子

マシユマロを やいてとろけて ほっぺおち

棚倉町立棚倉小学校 三年 吉田 優衣

ランタンの 明りに浮かぶ 子の笑顔

父 吉田 智

うれしいな ぼくのたいこで おどってる

中島村立滑津小学校 四年 宮本 和希

盆踊り 音頭とるのは 我が息子

母 宮本 寿子

御来光 雲海染めて 顔を出す

西郷村立西郷第二中学校 二年 柴田 真子

再挑戦だ 頂上めざし 富士登山

母 柴田 サワコ

あげはちよう すこしがまんね かごのなか

埴町立笹原小学校 一年 鈴木 真由

極彩に 目を奪われし 蝶の羽

母 鈴木さやか

じいちゃんの てづくりてつぼう さか上がり

矢吹町立善郷小学校 二年 菅家 嘉季

間伐の杉 少し太いが 低鉄棒

祖父 長谷川浩一

まんのうで 畑耕し 手には豆

矢祭町立矢祭中学校 三年 三森 裕哉

いつからか 孫をあてにし 農作業

祖母 三森タイ子

パパできた おにぎりじょうずに つくれたよ

会津坂下町立川西小学校 一年 松澤 佳歩

でこぼこな おにぎり嬉しい 昼ご飯

父 松澤 勝浩

夏のため パパといっしょに ペダルこぐ

猪苗代町立緑小学校 二年 鈴木 琢朗

涼風や 親子で進む 夏の道

父 鈴木総一郎

天日ぼし おいしくなれよ ぼくの梅  
 金山町立金山小学校 四年 中丸 凌太  
 太陽に うすべに色の 梅ならぶ  
 母 中丸 玲子

キアゲハだ やつと生まれた うれしいな  
 北塩原村立大塩小学校 三年 斎藤 栄作  
 頑張れと 祈りつつ育て 蝶になる  
 母 斎藤真理子

初めての そばうちをして こなだらけ  
 昭和村立昭和小学校 三年 渡辺 和希  
 蕎麦を打つ 我が子の姿 嬉しい日  
 母 渡辺 由美

むずかしい たいこに合わせて ぼんおどり  
 西会津町立野沢小学校 三年 渡部 聖也  
 笛の音 息子に向けて 音頭とる  
 父 渡部 和浩

なつのくも ふわふわわたあめ たべたいな  
 磐梯町立磐梯第二小学校 一年 元橋 玲奈  
 海水浴 波越え雲に ジャンプする  
 母 元橋ナオミ

やかたぶね 乗ってすずしい 風をきる  
 三島町立三島小学校 四年 板橋 恵  
 夏休み 孫のおともで 屋形船  
 祖母 板橋 孝子

いきつぎが 母の教えで うまくなる  
 湯川村立及川小学校 三年 鈴木 美咲  
 プールサイド 娘とならんで 往復す  
 母 鈴木 典子

テントはり 父の手をかり あせをかく  
 下郷町立栖原小学校 四年 小山 幸  
 汗だくで 娘と一緒に テントはり  
 父 小山 均

ハイキング がんばるごほうび おぜの風  
 只見町立朝日小学校 三年 塩川 成美  
 歩きぬく 娘の背押す 尾瀬の風  
 母 塩川 望美

父さんと 岩魚大漁 大はしゃぎ  
 檜枝岐村立檜枝岐小学校 五年 菅家 将志  
 蝉しぐれ 長男坊と 太公望  
 父 菅家 安志

ひまわりが 大きくさいたよ おひさまだ  
 飯館村立白石小学校 三年 高倉 菜緒  
 ひまわりと おなじ娘の 笑顔かな  
 母 高倉はるみ

ボランティア 子どもはみんな 笑ってる  
 葛尾村立葛尾中学校 一年 大関 信吾  
 ボランティア 息子の心 希望見る  
 母 大関 悠子

きれいだな 月の明かりに ホタルのひ  
 川内村立川内小学校 六年 志賀 風夏  
 一匹の ホタルが主役 夜の川  
 母 志賀 志津

はかまいり みずくみさんかい がんばった  
 相馬市立山上小学校 一年 荒 洗太郎  
 子と共に いのちの連鎖 垣間見る  
 母 荒 ひろみ

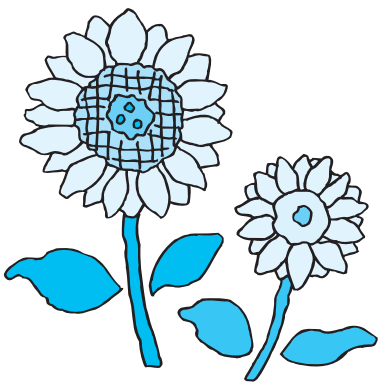
この畑 祖母の傑作 てんこもり  
 富岡町立富岡第二小学校 六年 佐藤 光  
 野菜取り かごいっぱい 笑みあふれ  
 祖母 佐藤 益子

ジャガイモは とても仲良し 大家族  
 榎葉町立榎葉北小学校 五年 松本 美音  
 汗だくで 掘ったジャガイモ おいしそう  
 父 松本 仁一

まが玉に こめた願いは かなうかな  
 広野町立広野小学校 六年 舞木 遥香  
 まが玉に 映る笑顔は 夢一杯  
 母 舞木 順子

すなはまで やつとみつけた にげるカニ  
 双葉町立双葉北小学校 二年 荒 日南子  
 カニさがし やつとみつけた 子のえがお  
 父 荒 健二

しょう乳洞 ぼくの気分は たんけん家  
 南相馬市立小高小学校 四年 大倉 光輝  
 腰かがめ 孫の後追う 鍾乳洞  
 祖母 大倉美智子





# 最終選考まで残った作品

植えた苗 きれいな花が 目に浮かぶ

県立新地高等学校 二年 菅野 拓也

花じゅうたん 夢見て子等と 苗植える

地域の指導者 目黒 弘子

ボール投げ 父をめぐけて ストライク

相馬市立中村第一小学校 五年 武口隆太郎

いつのまに 息子の直球 手の痛み

父 武口 隆行

温泉に 五回入って のびちゃった

南相馬市立鹿島小学校 四年 朝倉 悠太

孫たちの 声こだまして 露天風呂

祖父 朝倉 悠三

おとつと ほじょりとつたら やじろべえ

飯館村立草野小学校 二年 石井 理央

手を離し こいでこいでと ムキになる

父 石井 眞治

海めざし 自転車をごく 炎天下

浪江町立浪江中学校 一年 渡部 大樹

汗だくで 子の自転車を 追いかける

父 渡部 健

竹わって そうめんながし おいしいな

双葉町立双葉北小学校 三年 根本 康正

夏の日に 父子で作る 竹の川

母 根本 享子

おとうさん なんて起こすの 朝三時

大熊町立熊町小学校 五年 三間 葉月

朝三時 やつととつたぜ カブトムシ

父 三間 智之

楽しいな 母といっしょに クッキング

大熊町立大野小学校 五年 渡邊麻里菜

賑やかに 娘と作る 新メニュー

母 渡邊 庸子

遊園地 楽しくのった かんらん車

川内村立川内小学校 三年 西山 志穂

遊園地 子供の笑顔 つかれとぶ

母 西山 知子

テイクオフ 布団で練習 一、二、の三

富岡町立富岡第二小学校 六年 鯨岡 政斗

父の夢 ひとつ叶った 我子とサーフィン

父 鯨岡 勇

汗だらけ やつとのれたよ 一りん車

いわき市立中央台北小学校 二年 片寄 美帆

一輪車 皆に追いつき ほつとする

母 片寄 亜由美

じゃんがらで お父さんのお あせだらけ

いわき市立好間第二小学校 二年 吉田 晃基

盆供養 子にも響けよ 鉦の音

父 吉田 清隆

スポンジを 生クリームで おしゃれする

いわき市立入遠野小学校 三年 折笠 葉月

つかれても おいしくなあれと あわ立てる

母 折笠 明美

しんけんに 温度計読む 理科研究

いわき市立郷ヶ丘小学校 三年 松本 美織

「時間だよ」 知らせてのぞく 温度計

母 松本 公子

田植えて 父から学んだ 農作業

富岡町立富岡第二中学校 二年 伊藤 友和

息子の手 たくましくなり ひと安心

父 伊藤 博之

気合い入れ エプロンつけたが 粉まみれ

榎葉町立榎葉北小学校 六年 吉田 千晶

休みの日 娘と作る ドーナツ

母 吉田 範子

ほたるさん きれいなしっぽ かわいいね

広野町立広野小学校 三年 澤田 葵

微笑みを 返し輝く 蛍かな

母 澤田 香織

おかあさん ぼくもてつだう ふとんしき

郡山市立桑野小学校 二年 中村 健

胸響く 息子の気持ち 有難う

母 中村 康子

もういいかい まつてろじゃがいも 見つけるぞ

郡山市立上伊豆島小学校 二年 木村 太星

時わすれ 孫の手かりて いもをほる

祖父 木村 勝隆

ねえかあさん にんじんかわむき じょうずでしょ

郡山市立柴宮小学校 一年 遠藤明日香

晩御飯 いびつな愛情 隠し味

母 遠藤 弘子

カヌーこぎ おわったジュース おいしいな

郡山市立柴宮小学校 一年 園部 颯史

声そろえ 景色も流れる カヌーこぎ

父 園部 至哉

- ひぐらしと いっしょに歩く 散歩道  
郡山市立安積第二小学校 六年 後藤 智矢  
夕暮れに 影くらべして 散歩する 父 後藤 憲広
- だっこして ちよつとあまえて パパのひざ  
郡山市立大島小学校 五年 大泉 美桃  
重たいな 成長したな うれしいな 父 大泉 幸二
- そのボール ぼくがうつから パバなげて  
田村市立下大越小学校 二年 根本大仁郎  
バット持ち 構える姿に 夢をみる 父 根本 泰幸
- 山のぼり 小とりと会話 楽しいな  
須賀川市立西袋第一小学校 二年 加藤 佑汰  
我先に 子供追いかけ 山頂へ 父 加藤 秀行
- らんどせる ばあばにもらった たからもの  
須賀川市立阿武隈小学校 一年 関根 愛佳  
雨風に 負けるな小さな 一年生 母 関根 緑
- ひおこしは おとうさんでも むずかしい  
須賀川市立須賀川第二小学校 一年 市村 翔悟  
見せどころ 汗をかけども 火は起きず 母 市村 宏子
- じてんしゃで パパといっしょに たきをみに  
須賀川市立須賀川第三小学校 一年 藤井 雄大  
ペダルふむ 芭蕉と曾良か 夏二人 父 藤井 義朗
- うごいてる せみのこみつけ びつくりだ  
須賀川市立須賀川第三小学校 一年 井上 博史  
せみの子を 励まし続け 朝寝坊 母 井上和歌子
- おおはなび おなかにひびく すごいおと  
須賀川市立柏城小学校 一年 箭内 大悟  
焼けた顔 夜空の華に 照らされて 母 箭内 順子
- やつときた 母の浴衣で 夏祭り  
須賀川市立長沼東小学校 六年 大河原千佳  
盆踊り 娘の笑顔が もう横に 母 大河原敦子
- 干瓢を 切ってはつるす 滝のよう  
須賀川市立長沼小学校 六年 高橋 俊智  
干し干瓢 作る子供と 背くらべ 母 高橋利栄子
- 作ったよ タイヤのチューブで いかだ乗り  
須賀川市立須賀川第二小学校 五年 熊田 悠人  
手作りの いかだをこいで 海の家 父 熊田 賢一
- ばあちゃんに 見せよと思い 花をつむ  
須賀川市立須賀川第三小学校 四年 遠藤 芽美  
待つ心 知らずに孫は しゃがみこむ 祖母 後藤 エミ
- ソーメンの 流れをハシで 勝負する  
玉川村立須釜小学校 六年 近内 優  
ソーメンの 流れを待てば ハシに二本 母 近内 幸子
- なつやすみ せんたくものは ぼくがほす  
古殿町立田口小学校 三年 掛田 耕平  
子が干した せんたくものは シワがあり 母 掛田 初子
- にんきもの パンダをみれて うれしいな  
小野町立小野新町小学校 一年 鈴木 杏実  
パパひっし 汗をかきかき かたぐるま 父 鈴木 憲一
- 父の球 本気の球が 手を腫らす  
小野町立小野新町小学校 六年 横田 聡史  
手に響く ボールの強さ 父超える 父 横田 善郎
- 草をぬき 石ひの顔も ふきました  
小野町立小野新町小学校 四年 村山加那子  
先祖様 孫に洗われ いい気持ち 祖母 村山久良子
- いそ遊び ぼくより父が はしゃいでる  
天栄村立牧本小学校 六年 森 歩陸  
本物を 見せてあげたい 一心で 父 森 正
- おかあさん かたもみすると すぐねちゃう  
三春町立三春小学校 一年 橋本日南子  
小さな手 そのやさしさで 夢心地 母 橋本 晴子
- 盆踊り 父から学んだ 初たいこ  
三春町立中妻小学校 六年 鈴木 峻  
夏の夜に 息子と共に 打つ太鼓 父 鈴木 史典
- 夏休み 大きくできたよ シャボン玉  
石川町立石川小学校 三年 小豆畑知基  
シャボン玉 風と走るよ 秋近し 父 小豆畑和弘

ばんだい山 うらの顔は 石ゴロリ  
浅川町立里白石小学校 四年 須藤 和  
足とられ 流れる汗が またひとつ 母 須藤美江子

かえるとり たんぼに入り 足ぬげず  
平田村立蓬田小学校 二年 遠藤 惇平  
泥靴が 元気な声を 響かせる 母 遠藤友美子

おにやんま このゆびとまれと おいかける  
鏡石町立成田幼稚園 年少 鶴沼 侑季  
空つぼの 虫取りかごに 泣く娘 母 鶴沼ルリ子

哀しさと 思い出あふる 墓参り  
会津若松市立第三中学校 一年 今泉亜沙美  
木もれ日の 墓碑に向いて 師を偲ぶ 母 今泉万希子

ばあちゃんとおむかえ なすの馬  
会津若松市立鶴城小学校 四年 森川 貴弘  
孫の手で 作りし馬の むかえ盆 祖母 森川美美子

エプロンし 今日ほくも りよう理人  
会津若松市立湊小学校 三年 牛木 大地  
台所 はずむ会話と いい香り 母 牛木 春江

ポートこぎ かけ声そろえて いちにさん  
会津若松市立謹教小学校 四年 浜津 航也  
初ポート こいだールの 水が跳ぶ 祖父 西田 實

くもの上 いつもの町が 別世界  
会津若松市立門田小学校 四年 高塩 愛美  
ゆめにみた 家族でいっしょに 山登り 父 高塩 栄二

風にのり 雲の上まで ベダルこぐ  
会津若松市立荒館小学校 二年 越智 一博  
汗光る 息子とこぎし 登り坂 母 越智 美紀

せみの声 時計がおそい 草むしり  
会津若松市立河東第二小学校 五年 菅井 航平  
炎天下 それぞれの思いで 墓そうじ 父 菅井 洋一

いたずらの 記憶をすべて 貼り替える  
喜多方市立第二中学校 三年 小野寺清喜  
子の成長 障子貼り替え 見ちがえる 母 小野寺智恵子

やきゅうしに やつとでてきた おとうさん  
西会津町立尾野本小学校 二年 佐藤 尚哉  
せかす子と 汗をふきふき 野球する 父 佐藤 賢一

魚つり たぬきと出会った 夏の山  
北塩原村立大塩小学校 四年 五十嵐虹美  
大自然 ひとみ輝く 夏休み 母 五十嵐美枝子

筆を持つ 手に汗ためて もう一枚  
会津坂下町立川西小学校 六年 永山由紀穂  
筆走る 墨の香漂う 夏の午後 母 永山 智美

親子リレー 一位でわたす バトンパス  
会津美里町立尾岐小学校 六年 松本 奈美  
受けとった バトンの重さが 足に効き 父 松本 賢一

さか上がり ラストチャンスで できちゃった  
会津美里町立高田小学校 二年 湯田 雅人  
鉄棒を ぐつとらんで 一回り 父 湯田 靖

バスあげた ボールの先に 母の顔  
柳津町立柳津中学校 一年 前野 雨季  
バス受けて 笑う娘と 汗流す 母 前野 聡子

海水よく パパといっしょに ふうかふか  
湯川村立勝常小学校 二年 佐原 有紀  
ぶかぶかと 水面に浮かぶ 愛娘 父 佐原 健一

たかとうろう じいちゃんきてねと ぼくあげる  
金山町立立立山小学校 三年 長谷川順也  
父と子で 先祖偲びし 高灯籠 母 長谷川浩美

高速の 長旅おえて 家につく  
猪苗代町立千里小学校 四年 古川 諒  
画面より 会話が楽しい 息子ナビ 父 古川 靖

よし玉手 真けん勝負だ こんどこそ  
磐梯町立磐梯第二小学校 六年 佐藤 健  
そうきたか 余裕の笑みで 駒をうつ 父 佐藤 仁

セミ鳴けば 早押しクイズの 始まりだ  
いわき市立江名小学校 六年 坂本 晟一  
図鑑手に おぼえたセミの名 十種類 母 坂本 幸江

きびなごの 群れを追いかけ 井田の海

白河市立みさか小学校 六年 鈴木ひかる

夏富士の 姿かすんで 子の背中

母 鈴木 紀子

ぼくと父 二人のひみつ 理科研究

白河市立みさか小学校 五年 高橋 知大

キッチンには 親子理科室 夏の夜

父 高橋 顕

むかえ火を たいてむかえる 祖母の家

白河市立白河第二中学校 一年 丸山 健太

手のひらに 汗かき握る 盆提灯

母 丸山 道子

虫たちは 秋の夜長の 鼓笛隊

白河市立白河中央中学校 三年 鈴木 春佳

盆過ぎて 暑さなつかし 虫の音が

父 鈴木 正行

那須の山 九尾のきつね 石となり

白河市立東中学校 三年 藤田 望

妖狐でも 稲荷神社の 御神体

父 藤田 年幸

きらめいて 刹那に散る火 花火雨

白河市立東中学校 三年 岡部 拓磨

光散る 色とりどりの 夢火花

母 岡部 一枝

なつかしげ ほおずきならず 祖母と母

白河市立五箇中学校 一年 鈴木佳奈江

ほおずきが 宝石に見えた 幼き日々

母 鈴木えみ子

芋掘りは 夏の我が家の イベントだ

白河市立五箇中学校 一年 佐藤 拓弥

新ジャガの 小粒を自家製 味噌で和え

母 佐藤 良子

行つてきます 母の言葉に 守られて

白河市立白河南部中学校 三年 加藤あさみ

気を付けて 送る背中に おまじない

母 加藤由紀子

大そうじ アルバム見つけて ひとやすみ

白河市立白河第二中学校 二年 渡辺 絵里

目をほそめ 小さな自分と 御対面

母 渡辺理津子

初舞台 皆に届け 我が音色

白河市立白河第二中学校 二年 斎藤野々花

響きたり 心静かに 君の音

母 斎藤 澄子

かなづちの 打つ先見つめる 柵作り

白河市立白河第二中学校 二年 小鳥 翔太

柵作り 支える子の手 頼もしき

父 小鳥 幸夫

川遊び 岩の上から ダイビング

白河市立白河第二中学校 二年 阿久津隆太

子につられ 鼻をつまんで ジャンプする

母 阿久津かおり

親子リレー 子どものように はしゃぐ父

白河市立白河第二小学校 六年 佐藤 智基

リレーでも まけない父を 見せたがる

父 佐藤 進

プチャオル 王子目指して ポケットに

西郷村立川谷小学校 五年 横川 歩

負けつづき すぎる気持ちで ゲンかつぐ

母 横川 千明

スイカわり みんなのこえで あたったよ

西郷村立羽太小学校 一年 近藤 洋平

晴天に スイカ一つで 家族の輪

母 近藤アサ子

ほじよりんを はずしてのれた うれしいな

西郷村立米小学校 一年 松浦奈々帆

走り出す ゆらゆらゆれる 子の背中

母 松浦真由美

いなわしろ およぐ水中 ひかる貝

県立西郷養護学校 一年 星 亜莉沙

親の目に ビーチバレーの 三姉妹

教師 緑川 孝夫

これは幻想 真夏の山に 光る雪

西郷村立川谷中学校 三年 横川 琴実

ひうち岳 娘の後追い 頂上へ

父 横川 光雄

すもぐりで 魚をついた 夏休み

西郷村立川谷中学校 三年 内藤 大貴

得意気に 笑顔で見せる 話の先

母 内藤 久美

一輪車 私の師匠 小学生

西郷村立西郷第二中学校 三年 大石さなえ

ボランティア 教えるはずが 教えられ

父 大石 卓

父さんと 日曜大工 汗かいて

西郷村立西郷第二中学校 一年 先崎 貴洋

自信作 一坪ながら 出来はよし

父 先崎 宏治

- 帰り道 つくしにたんぼぼ おともだち  
 矢吹町立善郷小学校 三年 根本莉里華  
 泣きむしが 道くさおぼえて なごむ爺  
 祖父 太田 穰平  
 お父さん 里帰りすると 外国人  
 矢吹町立矢吹小学校 三年 長谷川桃子  
 故郷の夏 体にしみいる 訛りかな  
 母 長谷川尚子  
 力こめ 歌に合わせて 太こうつ  
 矢吹町立矢吹小学校 三年 安田 侑磨  
 夏の夜 孫の太鼓に 胸踊る  
 祖母 安田千枝子  
 イモの葉に たまった水の おもしろさ  
 矢吹町立善郷小学校 三年 五輪みさき  
 夏滴 夏の光の 美しさ  
 父 五輪 俊一  
 ほらあそこ ほたるふわりと おにごっこ  
 矢吹町立善郷小学校 四年 佐久間文香  
 はしゃぐ子の 指さす闇に ほたるごっこ  
 母 佐久間淳子  
 何回も 父をめぐらして なげる球  
 鮫川村立鮫川小学校 六年 円井龍一郎  
 光る汗 心で魂を 受け止める  
 父 円井 和広  
 くろいかい みつけたぼくの おおきいぞ  
 矢祭町立東館小学校 一年 菊池 大樹  
 並ぶ足 息子の笑いと 貝拾い  
 母 菊池 洋子  
 ゴーカート きょうはぼくが うんてんしゅ  
 棚倉町立杜川小学校 一年 佐々木 尽  
 助手席で 心配そうに 父が見る  
 父 佐々木 司  
 ポタポタと おちるクワガタ どこにいる  
 埴町立常豊幼稚園 年長 大友 稜也  
 さあ蹴るぞ みんな静かに 耳澄ませ  
 父 大友与支美  
 山頂で 広がる雲海 かがやく目  
 埴町立高城小学校 五年 鈴木 拓見  
 初めての 眼下の雲に 希望の目  
 父 鈴木 清文  
 竹の川 流れるそうめん すぐつかめ  
 中島村立滑津小学校 四年 酒井 麻里  
 次取るぞ 子供に負けじと はしゃぐ親  
 母 酒井 恵子
- お米とき おいしくなあれ ふつくらと  
 泉崎村立泉崎第二小学校 四年 齋藤 美和  
 白い米 こぼさぬ様にと 小さな手  
 母 齋藤みどり  
 くもの糸 あさつゆきらり ぴつかびか  
 福島市立立子山小学校 四年 大澤 武広  
 きれいだね 虫の世界の 芸術品  
 母 大澤 美幸  
 母の背を 見つめて登る 峠道  
 福島大学附属小学校 六年 青山 溪  
 足音を 気にして進む 登り坂  
 母 青山 崇子  
 かくれんぼ 鬼が近づき 口おおう  
 福島大学附属小学校 四年 牧野 泰  
 息づかい かかれていても おみとおし  
 父 牧野 民治  
 十日間 課題に追われる 夏期講習  
 県立福島西高等学校 二年 半澤 李奈  
 夏期講習 娘がいない 夏休み  
 母 半澤 順子  
 ひとつぶを みんなでたべた みにとまと  
 伊達市立梁川小学校 一年 三浦 博貴  
 少しずつ 食べるトマトの おもいやり  
 母 三浦 敬子  
 夏休み ヘチマがのびて つるをまく  
 伊達市立保原小学校 四年 須賀 愛美  
 楽しみだ ヘチマたわしで 入る風呂  
 祖父 小川 弘  
 ほおずきは 青から赤へ 大変身  
 伊達市立月館小学校 三年 半澤 玲奈  
 ほおずきで 口中鳴らし 遊ぶ母  
 叔母 渡辺かね子  
 きのみきを とうちんけつて むしおちる  
 二本松市立南戸沢小学校 三年 松尾 航汰  
 うれしいな いまもかわらず おんなじ木  
 父 松尾 忠和  
 ミニトマト 小さいけれど おいしいな  
 二本松市立石井小学校 四年 鈴木 花梨  
 日やけて トマトのような 赤い顔  
 母 鈴木真由美  
 海水よく 波にのまれて 一回てん  
 二本松市立新殿小学校 三年 本田 愛賀  
 危ないと 思いながらも 写真撮る  
 父 本田 周

たんぼみち のれたよのれた じてんしゃに

二本松市立二本松南小学校 一年 野村 花帆  
転んでも 草のクツシヨン ほら平気 母 野村 博子

やまのぼり と中であめふり ドロだらけ

二本松市立岳下小学校 四年 北野 隆裕  
安達太良の 青空おあずけ 初登山 父 北野 一人

オニヤンマ 葉っぱのうらに 見つけたよ

二本松市立北戸沢小学校 一年 石井 志歩  
早起し 娘はけさも オニヤンマ 父 石井 光一

本好きの 母に似たかな 趣味読書

二本松市立岩代中学校 二年 本多 恵理  
読書はね 心の柔軟 体操だ 母 本多 明美

よるになり 早くいきたい 虫とりへ

桑折町立伊達崎小学校 二年 今野 蒼都  
昔から 捕ると同じ カブトムシ 父 今野 幸喜

取り立ての ナスとキュウリで 馬と牛

伊達市国見町組合立大枝小学校 五年 松浦 大己  
めじるしの 燈籠立てて 迎え盆 母 松浦ひとみ

くぬぎの木 毎朝行くよ 虫採りへ

川俣町立飯坂小学校 四年 高橋 健太  
あつい夏 虫も子も群がる くぬぎの木 母 高橋 春美

漢字書き 問を出しあう 僕と父

川俣町立川俣中学校 一年 佐藤 峻輔  
書けるかな 手元見つめる 目は本気 父 佐藤 修一

バッティング なかなかうまく あたらぬ

飯野町立飯野小学校 六年 宮下 諒  
手本だと 振ったバットが 空を切る 母 宮下 寿恵

真つ赤だな まんまるまるい 光の子

大玉村立玉井小学校 五年 石崎 佑夏  
トマト狩り ずっしり笑顔 大収穫 母 石崎 淑子

そうじして ゴミの分別 理解する

白沢村立和田小学校 六年 森 潮風  
大掃除 親子で学ぶ リサイクル 父 森 淳

なみかぶり みずをのみこみ べそかいた

本宮町立本宮小学校 二年 山岸 沙彩  
べそかいて 尚も前進 たくましい 父 山岸 孝浩

あみのなか バッタかまきり つかまえて

本宮町立本宮小学校 二年 小島 捺生  
虫嫌い 息子の手前 勇気出す 父 小島 一昭

猪苗代 泳ぐよ遊ぶよ 楽しいな

本宮町立本宮小学校 四年 國分 悠平  
湖水浴 気持ちは息子と 同い年 父 國分嘉津浩

夏の夜 田んぼでホタルの お祭りだ

本宮町立五百川小学校 五年 伊藤 大生  
夕暮れの 田んぼの中の 流れ星 父 伊藤 寿夫

たのしいな はっぱにおえかき おもしろい

南会津町立田島第二小学校 四年 渡邊 瑠花  
深緑の はっぱが紙に へんしんだ 教師 大内 美香

清流に 泳ぐ山女魚と 知恵くらべ

南会津町立館岩小学校 五年 星 武秀  
釣り竿を 握る右手に アキアカネ 母 星 芳子

あみにぎり じつとまちぶせ おにやんま

南会津町立上郷小学校 一年 小椋 蓮  
我が子おき オニヤンマ採りに 無我夢中 母 小椋 恵理

魚つり 毛ばりからまり あきらめた

南会津町立南郷第二小学校 三年 五十嵐太介  
老いの目は 講釈だけの 毛針つけ 祖父 五十嵐勝司

湿原に ひびきわたった せみの声

南会津町立松沢中学校 一年 星 裕樹  
夏ゼミが 湿原の広さ 教えけり 教師 鈴木 節子

祖父祖母と 楽しくいつしよに つめた蜜

下郷町立榎原小学校 五年 渡部 真帆  
孫二人 蜂蜜繁盛 笑顔かな 祖父 渡部 弥七

よさこいだ 花火と一緒に 舞い上がり

南会津町館岩小学校 六年 星 詩織  
ゼゼエと むすめと踊る 夏まつり 母 星 富士子

## 一 共通体験を作品に

子どもと大人の共通体験から心がふれあい、対話を通しての「十七字のふれあい」の作品作りが浸透してきました。

日常生活のありふれた経験を素材とした、等身大・自然体の大人との心のふれあいを表現した作品が数多くあり、ほのぼのとした雰囲気醸成され温かな思いに包まれました。

また祖父母と孫との作品も多く見られ、世代を越えた交流の中で、孫に伝えたいメッセージが込められている作品が多く感銘しました。また、その地域ならではの体験や地域の伝統に親子で取り組む姿などが表現された作品も多くなり体験の広まりを感じました。

しかし、作品の中には、体験にともなわない親のメッセージであったり、具体的な活動が浮かんでこない作品もありました。

共通体験を通してどのような心のふれあい・響きあい・伝えあいがあったのか、さらなる表現の工夫が期待されます。

作者の組合せも、親子はもちろん祖父母、教師、地域の方と幅が広がってきています。子どもに係わる大人が増えてきており、そのことが地域の教育力の向上にもつながっていくように思われます。



## 二 十七字(五・七・五)の魅力を生かして

五・七・五のリズムは、快い響きを持っています。

この五・七・五のリズムに沿ってたくみに読み込まれた作品や、短い言葉の中で、情景が浮かんでくる作品が多く見られ、全体的な表現力の向上が感じられました。

さらに二字二字の言葉を大切にすることによって情景や感動が伝わる素晴らしい作品に仕上がります。

## 三 よりよい作品作りのために

よい作品を作るには、常とう句やだれもが考える言葉を使うよりは、自分の考えを最もよく表す言葉(光る言葉)を見つけ出すことが大事です。

今回の応募作品の中にも情感を表す光る言葉が多数見られたことは、とてもすばらしいことと思います。

光る言葉が読み込まれていない句の多くは、説明調になっています。特に大人の句にはこのような傾向が多少見られました。

## 四 推敲も大事な体験

審査の中で「この言葉にかえたら」という声が多く聞かれ、作品をもう一度読み返してみる推敲の大切さを感じました。

大人と子どもとの体験活動の中で子どもたちの心が成長するとともに、その体験をもとに話し合い、文字にすることで体験や感動をしっかりと心に刻むことができます。そして大人との心のふれあいと言葉を大切にすることによって、豊かな感性も培われます。

応募する前に、もう一度ふたりで作品を吟味すると、さらによりよい作品になります。

## あとがき

本年度は、二万二千八百八十五組の応募がありました。大人と子どもで四万五千人以上が、「十七字のふれあい」の作品づくりに携わったことになり、本事業の趣旨が多くの方にご理解いただいていることをうれしく思います。何気ない日常生活の場面を対話を通して作品に仕上げたり、共通体験をもとに大人が子どもにメッセージを伝えたり、大人と子どもが一緒に取り組む活動が広がっています。

この大人と子どもとの共通体験をおとした心と心のふれあいが、家庭を中心に地域へと広がり次代を担う子どもたちが夢と希望を持って地域の皆さんとふれあいながら生活できることを期待しています。多数のご応募をいただきまして、誠にありがとうございました。